



祐介の目

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

No.61

毎月1日号に掲載

原市に在住と判明し、73年の時を経てプレートを返還した。高森大尉の最期は私の著書「永遠の四一」に次のように記載されている。

高森部隊プレート

7月に福山41連隊のご遺族と共にパプアニューギニアを訪問し、かつての激戦地「ギルワ」中央陣地跡にて「高森部隊」と記された銅板製のプレートを手に入れた。高森部隊とは工兵第55連隊・第1中隊長の高森八郎大尉に違いなく、ギルワ中央陣地にて41連隊と共に守備に就いていた。

じつは前回訪問した際にこのプレートの存在は確認していた。しかし、お金で買えば住民に「商売になる」という意識が生じ、以前にも遺骨等が発見された際に障害になった例がある。買っ訳にもいかず相談の結果、次回ノートパソコンと交換する事を約束した。そして2年後の今回の訪問でようやく入手できた。

帰国後、高森大尉の出身地である滋賀県の遺族会や、部隊が駐屯していた善通寺の自衛隊等、四方八方に問い合わせた。結果、ご遺族の高森慶司氏が米

かて砲弾の直撃を浴びて戦死したが、その死に方の苛烈なことは一片の肉切れを拾うのも困難なほどだった。ところがこの死に方はみんなから羨望され、特に重傷で呻いている患者などが、「うまくやったなあ」と、こんな嘆声を洩らしていたのは笑えない事実だった。負傷者に医薬品は皆無であり、敵の砲撃があっても創のために壕へ移すことができず、負傷者自身も、棄鉢的な気持からでなく本心から、直撃弾を浴びてさっぱり死んでしまいたいと願っているのだった。

このような地獄の戦場で戦死された高森大尉の御霊がようやく帰国されたが、ご遺族の喜びもひとしおであった。戦争の歴史が風化する中、今回のような運命的な出来事が今なお起こる事を多くの方にも知っていただきたい。希望があれば遺族の方を現地にご案内もしたいが、今や私にしか出来ない事かもしれない。